

二 實翁夜話

第9回 R.5 12/13 (水) 資料

地の巻 第四篇 吉凶禍福善惡の法則

一〇一 p.141 物の道は善の道

。法則「四つの道 天地、親子、夫婦、農業者

p.142

「国は利をもと利とせよ、義をもと利とする」

此謂「国不以利為利、以義為利也」

孝経の「應安道」第12

敬す。此の者寡く、悦ぶ者衆し。

此之を安道と謂うなり。

「敬者寡、而悦者衆。此之謂安道也」

一〇二 p.143

悪運は天地神明の加護

。願うこと、することか違うからいりなり。

一〇三 p.144

運とは、ゆく器の水の増減

。増減は器ゆく水と見ま

あてらませば、こちから入るなり

一〇四 p.145

禍福吉凶は因果応報

。禍福吉凶は方位、日月などとは関係が深い。

。易経 坤の卦の文言位

「積善之家必有余慶」

「積不善之家必有余殃」

必ずしもすむか回る
くるものではない

一〇五 p.146 吉凶禍福は相對のもの

。吉凶禍福、苦樂、憂歡は相對するもの

歌「ちゅうちゅうとちげき共くまゝくえきりな

あすみの地獄 ねこの極楽」

一〇六 p.147 禍福は一つの裏表

。例えは、庖丁、水の例

一〇七 p.148 半分は善なる半分は悪

。人間の身の勝手

。「涅槃經」の例

功徳天・鬼闍天 姉妹 命帝之龍

。もともと禍と福とは同伴であり「用」である。

一〇八 p.151 善悪の定規

「古学之道、大明明德、在親民、在止於至善。」

「象善奉行」 善とは何ぞ?

。「見返せば遠き近きはあやかりけり

己らか何処にぞある。」

一〇九 p.153 実地を善行と尊ぶ

。およそ世の中のことには、実行のよさこそが

成熟したものである。

一一〇 p.154 負けるの隔たりは心得一つ

。本流はどなたの心得にある

。聞かなくえ始の方道に基づくものがある

一一一 p.158 何を、負、富といふか

不偏不倚、甲、乙、丙、丁、戊、己、庚、辛、壬、癸、子の位

「中」を越えざるも、富とす

一一三 p.158 地獄、極楽と因果、元報

儒者は三世を説かぬ、佛は三世を説く、三世といふ事は、必ずある

佛教は三世を説く、儒教は三世を説く

念仏宗、念仏を唱ふるか、念仏を唱ふる

南無阿弥陀佛

法華宗、妙法蓮華經を唱ふるか、妙法蓮華經

南無妙法蓮華經

一一三 p.157 極樂を得る道

極樂を得る道は、そのそのまゝ受け得る

天禄の分内を争ふことにある

阿弥陀經

又舍利弗、極樂國土、有七宝池、八功德水、充

滿其中、池底純以金沙布地、四辺階道、金銀

瑠璃、玻瓈、合成、上有樓閣、亦以金銀瑠璃、玻

瓈、碑、磔、赤珠、碼、碯、而嚴飾之、池中蓮華、大如

車輪、青色、青光、黄色、黄光、赤色、赤光、白色、白

光、微妙、香潔、舍利弗、極樂國土、成就如是功

德莊嚴